

# 使徒聖ヨハネ第壹書簡

冒頭。

第一章 生命の御言に就きて、素より在りたりし所、我等の聞きし所、目にて見し所、熟眺めて手にて扱ひし所、二 即ち生命一たるもの一頭れ給へり、我等は曾て父の御許に在して、我等に頭れ給ひし永遠の生命を見奉り、之を保證し且汝等に告ぐるなり。三 我等が見聞せし所を汝等にも告ぐるは、汝等をも我等に與せしめ、且我等の與をして父と其御子イエス、キリストと共に在らしめん為、四之を書贈るは(汝等が喜びて)其喜の全からん為なり。

第一項 神は光にて在せば、我等は光の子として生活すべし。

五 然て我等がキリストより承りて汝等に傳ふる所の告は斯なり、神は光にて在し、之に聊も暗黒ある事なし、六 我等若彼に與し奉ると言ひて暗黒を歩まば、是偽りて眞を行はざるなり。七 然れど彼が光に在すが如く、我等も光の中に歩まば、是互に相與して、其御子イエスの御血は、我等を凡て罪より潔むるなり。八 若我等罪なしと言はば、自ら欺く者にして、眞理は我等の中に在らず。九 若我等罪を告白せば、神は眞實正義に在して我等

の罪を赦し、我等を凡て不義より潔め給ふべし。一〇 若我等罪を犯したる事なしと言はば、神を虚言者とし奉るものにして、御言我等に在らざるなり。

第二章 我小子よ、是等の事を汝等に書贈るは、汝等が罪を犯さざらん為なり。然れど若罪を犯したる者あらば、我等は父の御前に辯護者を有せり。是即ち義者イエス、キリストにして、二 彼は我等が罪の贖にて在す、吾に我等の罪のみならず、全世界の罪に對しても亦然るなり。三 我等御掟を守る時に、是によりて彼を識り奉れる事を覚る。四 自ら彼を識り奉れりと言ひて御掟を守らざる人は、虚言者にして眞理其衷に在らず。五 其御言を守る人には、神に對するの愛ありて完全なり。我等は是によりて、己の彼に在る事を覚る。六 彼に止り奉ると言ふ人は、己も亦彼が歩み給ひし如くに歩まざるべからず。七 至愛なる者よ、我が汝等に書贈るは新しき掟に非ず、汝等が初より受けたる古き掟にして、古き掟とは汝等の聞きし御言なり。八 又新しき掟を汝等に書贈る。是は彼に於ても汝等に於ても等しく眞なり、其は暗黒過去りて眞の光既に照ればなり。九 自ら光に在りと言ひて己が兄弟を憎む人は、今に至るまで暗黒の衷に居るなり。一〇 己が兄弟を愛する人は、光に止まりて、彼には躡く所なし。二 然れど己が兄弟を憎む人は、暗黒に在りて暗黒に歩み、暗黒の爲に目を眩されたるが故に、往くべき所を知らざるなり。三 小子よ、我が汝等に書贈るは、汝等の罪キリストの御名

によりて赦されたるが故なり。三 父等よ、我が汝等に書贈るは汝等が初より存し給へるものを識りたるが故なり。青年等よ、我が汝等に書贈るは、汝等が悪魔に勝ちたる故なり。一四 子兒等よ、我が汝等に書贈りしは、汝等が父を識り奉れる故なり。父等よ、我が汝等に書贈りしは、汝等が父を識り奉りたりし故なり。若き者よ、我が汝等に書贈りしは、汝等が強くして神の御言汝等の衷に止り、汝等悪魔に勝ちたる故なり。一五 世及び世に在る事を愛する勿れ、人若世を愛せば父に對する愛之に存する事なし、一六 其は總て世に在る事、肉の慾、目の慾、生活の誇は父より出でずして世より出づればなり。一七 而して世も其慾も過去れど、神の御旨を行ふ人は限なく存するなり。一八 小子よ、末の時なり、曾て非キリスト來ると汝等の聞きし如く、今既に非キリストと成れるもの多し。我等は之によりて末の時なるを知る。一九 彼等は我等の中より出でたれど、素より我等のものたらざりき。若我等のものたりしならば、我等と共に止りしならん、然るに「斯の如くなるは」彼等が皆我等のものたらざる事の明に成らん為なり。二〇 汝等は聖なるものより注油せられて、一切の事を識れり。二一 我が汝等に書贈りしは、眞理を知らざる者として非ず、之を知り、又偽は總て眞理より出でざる事を知る人として書贈れるなり。二三 偽る者は誰ぞ、イエススのキリストにて在る事を否める人に非ずや。御父及び御子を否める人、是こそは非キリストなれ。二三 總て御子を否める人は御

父をも有し奉らず、御子を宣言する人は御父をも有し奉るなり。二四 願はくは汝等が初より聞きし所、汝等の衷に止らん事を。若初より聞きし所、汝等の衷に止らば、汝等も亦御子及び御父の衷に止り奉らん。二五 夫御子が自ら我等に約し給ひし約束は、即ち永遠の生命なり。二六 我汝等を感はず人々に就きて是等の事を書贈りたれども、二七 汝等は彼より賜はりし注油其身に止りて、人に教へらるるを要せず、其注油は萬事に就きて汝等を教へ、而も眞にして偽に非ず、汝等其教へたる儘に之に止れ。二八 小子よ、卒主の衷に止り奉れ、然らば其顯れ給はん時、我等は憚る所なく、其降臨に於て彼より辱められじ。

## 第二項 神は義にて在せば我等は義に據るべし。

一九 汝等神が義にて在することを識らば、又義を為す人の彼より生れ奉りしを辨へよ。

第三章 我等が神の子等と稱せられ、且然あらん為に父の我等に賜ひし愛の如何なるかを看よ。世の我等を知らざるは、彼を知ら奉らざるが故なり。二 至愛なる者よ、我等は今實に神の子等たり、然れど其如何に成るべきかは未顯れず、我等は其顯れん時、我等が神に似奉るべきを知れり、其は之を有の儘に見奉るべければなり。三 總て此希望を有する人は、尚彼も潔く在すが如く、己を潔からしむ。四 總て罪を犯す人は律法を犯す、即ち罪を律法を犯す事なり。五 又イエススの顯れ給ひしは我等の罪を除

かん為にして、彼に聊の罪なき事は汝等の知る所なり。六 総て彼に止る者は罪を犯さず、総て罪を犯す人は彼を見奉りし事なく彼を識り奉る事なし。七 小子よ、誰にも惑はさるる事勿れ、義を為す者は義人なり、猶彼が義人にて在すがごとし。八 罪を為す者は悪魔よりの者なり、其は悪魔は初より罪を為す者なればなり。神の御子の頭れ給ひしは、悪魔の業を亡ぼし給はん為なり。九 総て神によりて生れ奉りし人は罪を為さず、其は御種之に存すればなり。又罪を為す能はず、其は神によりて生れ奉りたればなり。一〇 神の子等と悪魔の子等とは、是に於て乎 明に顕る、即ち総て義を為さざる人は神よりの者に非ず、兄弟を愛せざる人も亦然り、二 其は互に相愛せよとは汝等が初より聞きし告なればなり。三 カインの如く為すべからず、彼は悪しきものより一人にして弟を絞殺ししが、之を絞殺ししは何故ぞ、己が業は悪くして弟の業は正しかりし故なり。三 兄弟等よ、世の汝等を憎むを怪しむ事勿れ、四 我等は兄弟を愛するによりて死より生命に移されたるを知れり、愛せざる人は死に止る。一五 総て己が兄弟を憎む人は人殺者なり、総て人殺者は永遠の生命の其身に止る事なきは汝等の知る所なり。一六 我等が愛を覺りたるは、キリストが我等の為に生命を棄て給ひしを以てなり、我等も亦兄弟の為に生命を棄つべし。一七 此世の財産を有てるもの、兄弟の窮乏せるを見つ、之に己が腸を閉ぢなば、争でか神に對する愛の之に止る事を得んや。一八 我小子よ、我等は言と

舌とを以て愛すべからず、行と眞とを以てすべし。一九 之を以て我等が自ら眞理によれる事を知る、又御前に於て我心を勧めん、二〇 蓋我等の心我等を咎むるも、神は我等の心より偉大に在して萬事を知り給ふなり。二一 至愛なる者よ、若我等の心我等を咎めずば、神の御前に於て憚る所なし、二二 又何事を願ふも之を賜はるなり、其は神の掟を守りて御意に適ふことを行へばなり。二三 斯て其掟は、即ち御子イエス、キリストの御名を信じ奉り、且其我等に命じ給ひし如く互に相愛すべき事是なり。二四 神の掟を守る人は神に止り奉り、神も亦是に止り給ふ。我等が神の我等に止り給ふ事を知るは、其我等に賜ひし一聖一靈によりてなり。

第四章 至愛なる者よ、汝等凡ての靈を信せずして、靈の神よりのものなりや否やを試みよ、其は多くの偽預言者世に出てたればなり。二 神の靈は斯を以て知るべし、即ち肉身に於て來り給ひしイエス、キリストを宣言する靈は、総て神よりのものなり。三 又イエスを宣言せざる靈は、総て神よりのものに非ず、此れは是非キリストの靈なり。汝等曾て彼の來るを聞きしが、彼今已に世に居るなり。四 小子よ、汝等は神よりのものにして、彼偽預言者に勝てり、是汝等に在せるものは、世に在るものより優り給へばなり。五 彼等は世よりのものなれば世に從ひて語り、而して世は彼等に聴く。六 我等は神よりのものなり、神を識り奉る人は我等に聴き、神よりならざる人は我等に聴かず。我等は是

を以て眞理の靈と誤謬の靈とを識る。

第三項 神は愛にて在せば我等は愛を有せざるべからず。

第一款 愛の起源、好果及び徴。

七至愛なる者よ、我等は相愛すべし、是愛は神より出で又絶て愛する人は神より生れて神を識り奉る者なればなり。八愛せざる人は神を識り奉らず、蓋神は愛にて在す。九神の愛の我等にて顯はしは、神が我等をして是によりて活きしめん爲に、其御獨子を世に遣はし給ひしを以てなり。一〇愛とは斯なり、即ち我等が先に神を愛し奉りしに非ずして、神御自ら先に我等を愛し給ひ、我等の罪の爲に御子を贖として遣はし給ひしなり。一一至愛なる者よ、神の我等を愛し給ひし事斯の如くなれば、我等も亦相愛すべきなり。一二誰も曾て神を見奉りし事なし、我等にして相愛せば、神我等の衷に止り給ひて、之を愛し奉る愛は我等に於て完全なり。一三我等が神に止り奉る事と神が我等に止り給ふ事とを知るは、神が其靈を我等に賜ひしによりてなり。一四父が御子を世の救主として遣はし給ひし事は、我等目撃して之を證す。一五凡そイエスが神の御子にて在すことを宣言する者は、神之に止り給ふ、彼も亦神に止り奉る、一六神の我等に對して有し給へる愛は、我等こそ之を知り、且信じたる者なれ。神は愛にて在す、而して愛に止る者は神に止り奉り、神も亦之に止り給ふ。一七愛が我等に於て完全なるは、我等が審判の日に憚る

所なからん爲なり、其は我等は此世に於て主に似奉ればなり。

一八愛には懼れなし、懼れは苦罰を含むが故に、完全なる愛は懼を除く、懼るる者は愛に完全ならざる者なり。一九然れば我等神を愛し奉るべし、神先我等を愛し給ひたればなり。二〇人ありて、我神を愛し奉ると言ひつつ己が兄弟を憎まば、これ虚言者なり、蓋目に見ゆる兄弟を愛せざる者争でか見え給はざる神を愛し奉ることを得べき。二一且神を愛し奉る人は己が兄弟をも愛すべしとは、是我等が神より賜はれる掟なり。

第二款 イエス、キリストに於る信仰及び其の尊き結果。

第五章 総てイエスのキリストにて在すことを信ずる人は、神より生れ奉りたる者にして、総て生み給ひしものを愛する人は、亦神より生れ奉りたり者をも愛するなり。二我等は神を愛し奉りて其掟を實行する時、之を以て神の子等を愛する事を知る、三其は神に對する愛は、其掟を守るに在ればなり。斯て其掟は難きものに非ず。四蓋総て神より生れ奉りし者は世に勝つ、而して世に勝ちたる勝利は我等の信仰是なり。五世に勝つ者は誰ぞ、イエスが神の御子にて在すことを信する者に非ずや。六是ぞ水と血とによりて來り給ひしもの、即ちイエス、キリストなる、唯水のみに非ず水と血とによりてなり。之を證し給ふものは「聖」靈にして、「聖」靈は眞理にて在す。七蓋（天に於

て證するもの三あり、父と御言と聖靈と是なり、而して此三のものは一に歸し給ふ。八又地に於て證するもの三あり、靈と水と血と是なり、而して此三のものは一に歸す。九我等人の證を受くれば、神の證は更に大いなり、而して神の此證の大いなるは御子に就きて證し給ひしが故なり。○神の御子を信じ奉る人は己の衷に神の證を有す、神を信ぜざる人は之を虚言者と為し奉る者なり、其は神が御子に就きて為し給へる證を信ぜざればなり。二其證は是なり、即ち神我等に永遠の生命を賜ひて、此生命は其御子に在り、二御子を有し奉る人は生命を有し、御子を有し奉らざる人は生命を有せざるなり。

結末。

二三 我が是等の事を汝等に書贈るは、神の御子の御名を信じ奉る汝等をして、自ら永遠の生命を有せる事を知らしめん為なり。一四 又御言に従ひて願ふ時は、何事をも我等に聴き給ふ事は、我等が彼に於て確信し奉る所にして、一五 何事を願ふも我等に聴き給ふ事を知れば、亦願ひし所を得べき事をも知れるなり。一六 人若くは兄弟の死に至らざる罪を犯すを見れば祈るべし、然らば生命は死に至らざる罪を為せる人に賜はるべきなり。又死に至る罪あれば、我は之が為に願ふべしと言はず。一七 凡ての不義は罪なり、又死に至らざる罪あり。一八 総て神より生れ奉り

たる人は罪を為さず、神より生れ給ひしもの之を守り給ひて、惡魔の之に触るる事なきは我等之を知れり。一九 我等は神よりのものにして、世は挙りて惡魔に屬する事は我等之を知れり。二〇 神の御子が我等に眞の神を識らしめ、我等を其眞の御子に在らしめん為に、來りて智識を與へ給へる事は我等又之を知れり。是ぞ眞の神にして又永遠の生命にて在す。二一 小子よ、自ら守りて偶像に遠ざかれ。